

入選

お姉さんになるゆう気

千葉県 牧野原小学校

2年 日向麻梨子

今年の春、わたしは小学2年生になりました。きょねんまでは、6年生のお兄さんお姉さんがいろいろ手つだってくれていたけれど、今年の一つ学年が上がり、1年生が入ってきました。

5月のある日、私が一人で校内をあるいていると、1年生の女の子が3かいをあるいていました。3かいは、3年生のきょうしつがあるかいです。何をしているのかなと思ってようすを見てみると、うろうろしていて、3年生にようじがあるかんじではありませんでした。

わたしは少ししんぱいになったので、「どうしたの?」と声をかけました。女の子は、「?」と首をよこにたおしました。

「まいごになったの?」

と聞くと、「うん。」と答えてくれました。

私の学校は、コの字がたになっていて、1年生のきょうしつは、今いるばしょのはんたいがわで2かいにあります。女の子は、入学したてで校内でまいごになっていました。休み時間ももう少しでおわりだったので、

「きょうしつにもどる?」

と聞いて、1年生のかいまでつれて行ってあげました。ふあんそうなかおをしていた女の子は、声をかけると少し元気になってくれて、わたしも心の中で、(もう大丈夫だよ)と思いました。

かいだんをおりて、はんたいがわの1年生のきょうしつにつくと、

「ありがとう。わたしも、お姉さんみたいになりたいな。」

と言って、バイバイと手をふってくれました。

わたしには、中学1年生のお姉ちゃんがあります。女の子に『お姉さん』と言われてちょっとうれしかったし、「お姉さんみたいになりたいな」と言われたのもすごくうれしくて、あたたかい気持ちになりました。

さいしょに女の子を見かけたとき、声をかけようかどうしようか少しまよったけれど、ゆう気を出して声をかけてよかった、と思いました。こまっている人に声をかけるのは、少しゆう気があることだけれど、だれかのやくに立てるのはうれしいことなので、このけいけんをいかしてこれからもこまっている人がいたら、ゆう気を出して助けたいと思いました。